

補助事業の成果の概要

技術開発課題の概要

- 大規模なゲノムデータを想定し、セキュアなデータ管理と複数のユーザーによる同時接続に対応したデータ基盤技術を開発する。

I-Challenge! における成果

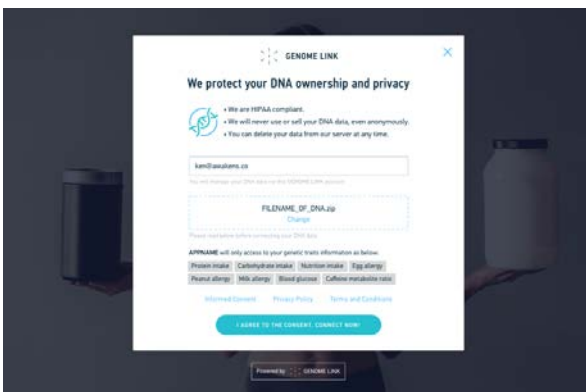
- 2018年9月時点で、米国において4万人規模のB2Cゲノムプラットフォームを構築。さらに、ゲノムデータを安心して接続し遺伝的な体質傾向に合わせた個別化プロダクトを活用できるB2B向けの基盤技術を開発。米国におけるB2Bの初期クライアントを獲得、実証を通じた機能改良により基盤技術を確立。

事業化支援機関からのコメント（支援を行うことを決めたポイント、行った支援等）

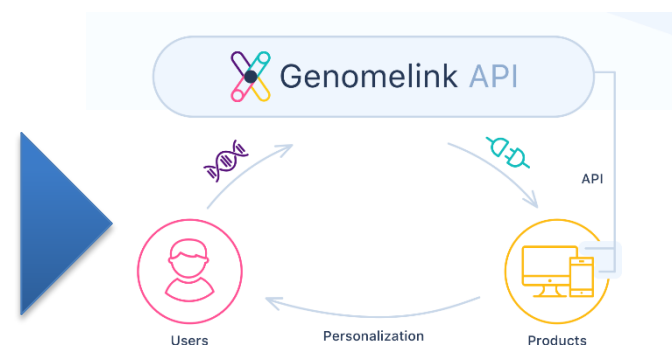
- 個人情報個人が保有し、必要なところで活用するというコンセプトを究極の個人情報であるゲノムに応用し、プラットフォームを築いた。ゲノム情報の社会倫理性を鑑み、まずは医療部門ではなく、コンシューマーサービス用途での展開を考えた点が非常にユニークであり、将来、ゲノムが当たり前になった時に、世界のデファクトになりうるという観点で支援を行った。



ゲノムデータを専門としない企業が開発するアプリが B2Bソリューション “Genomelink API”を実装



“Genomelink API”が様々なアプリに対してゲノムデータの取得、保管、解釈、連携に必要な機能を提供



“Genomelink API”を実装する様々なアプリが一般ユーザー向けにセキュアなサービスを提供